

シャコガイの放流指導（宮古地区）

長嶺 巖、奥原哲夫

1. 放流目的

宮古島周辺海域は、八重干潮をはじめ、広大なサンゴ礁が発達し、シャコガイ、タカセガイ、サザエ等貝類の好漁場を形成している。近年、貝類は、スシネタや活魚店での需要が高まり、特にヒメジャコは7,000～8,000円の高値で取引されていることから、乱獲が進んでいる。

リゾートホテル等の進出によって今後も需要は高まるものと予想されるので、県水試八重山支場で種苗生産されたヒメジャコの稚貝を放流することによって、漁業者及び地域住民の資源管理に対する気運を高めることと、大量種苗生産に対応するための放流適地の検討を目的に放流事業を実施した。

2. 放流の経過

(1) 放流場所の発達

7月11日、漁協の役職員、放流に参加するグループ員、市町村の水産担当職員27名で放流海域の選定及び放流方法の検討会を実施した。

放流海域の条件として

- (1) シャコガイが多く生息している場所、また以前に多くいた場所
- (2) 水路及びリーフの割れ目があり、リーフ外の外洋水がよく入る潮どおしのよい波のよくない場所
- (3) 赤土の堆積していないところ、また砂で埋まらないところ
- (4) 塊状ハマサンゴの死んだ、なかの部分で、砂に埋まらないところ
- (5) ヒメジャコが生息している柔らかいサンゴの岩
- (6) 大潮干潮時に、5～10cmの深さになって干出ししないところ
- (7) 一般の人が簡単に来れない、管理しやすい場所

以上、県水試八重山支場の資料と、宮古支庁の事前調査、漁業者の意見を検討して、7項目の条件に合う場所を4ヶ所選定した。別添図面参照。

事業主体	海 域 名	海 域 条 件							評 価
		1	2	3	4	5	6	7	
St1池間漁協	タチャタイリーフ	○	○	△	×	○	△	△	B
St2平良市漁協	アガサビセ	○	○	○	×	○	△	×	B
St3 "	城辺町	△	△	○	○	○	○	△	A
St4 "	吉野海岸地先	○	○	○	○	○	○	○	A
	保良パナリ								

上記4候補地のうち、大神地先のアガサビセは放流人員の確保ができず、3ヶ所のみに放流を実施した。

3. 放流の実施個数及び方法

事業主体	種苗受入月日	放流月日	放流場所	個 数	放流方法	参加人数	備 考
池間漁協	S63. 7. 12	7. 13	タチャタイリーフ		埋込法	28名	
		7. 14	"		埋込法	25名	
		7. 15	"		埋込法	33名	
平良市漁協	S63. 7. 14	7. 14	吉野海岸地先		埋込法	36名	宮水高生徒 21名参加
		7. 15	保良パナリ		埋込法	29名	
		7. 14	保良パナリ		埋込法	28名	

放流方法は、ドライバーとカナヅチを用いて2人1組で直接埋込法で行ったが、貝のサイズが4mm、7mmと個体差があるため、埋め込んだあと、逃げる貝も多かった。

また、穴の深さを5mm程度と決めても、サンゴの質によって浅くなったり深くなったり、一定の深さで穴を開けることはできなかった。

4. 放流後の結果

放流後の調査をタチャタイリーフ3回、保良パナリ2回、吉野海岸地先3回実施した。その結果は、別表のとおり。

タチャタイリーフの調査結果、放流場所に漂砂（台風23号のあとがあり、さらにウスユキウミウチワがリーフの%程に発生し、光がさえぎられた状態で、大部分の放流貝が死滅した。ハマサンゴに埋込んだ場所と水路付近に570個確認されただけで、歩留りは5.7%と悪く、3月3日の計測で12.8mm、平均サイズで成長もよくなかった。

吉野海岸地先は、ハマサンゴのみに埋込んだ結果、1回目8月23日の調査では1,082個の個体が確認されたが、死貝はケイソウ、ランソウの発生しているハマサンゴに多くみられた。10月21日の2回目の調査で雑草類の発生が多かったので2週間に1回の雑草除去を行った。貝の成長も2月27日の20個体計測で、平均21mmと良好であった。

保良パナリは、遊魚者の密漁はできない場所であるが、潮流が速く、埋込時にも苦労した。海藻類の付着は少なかったが、稚貝を捕食するブダイ、ベラ類が多く、埋込んだあとからすぐに捕食していた。放流後の調査は、潮流や波浪の関係で、個体の成長のみを実施した。

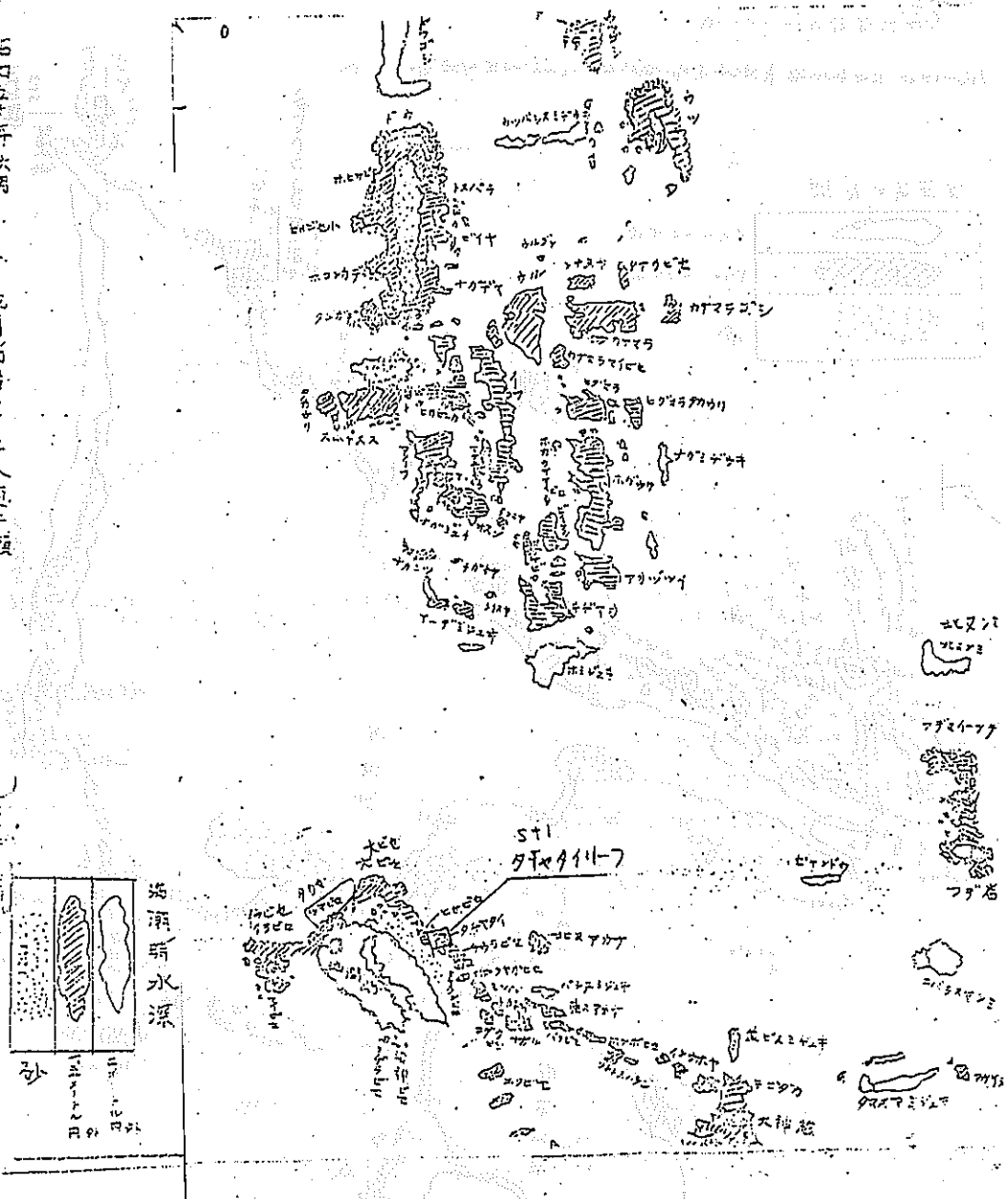
5. 今後の課題

今回は、初めての放流であったが、短期間に20,000個の放流ができた。問題点として、タチャタイリーフの漂砂、ウミウチワ等の海藻類の発生、魚の食害等、放流効果の面で改善すべき課題は多い。今後は、沖縄本島地区で実施されているハマサンゴの人口基質を用いた中間育成を、平良市栽培漁業センターと連携をとり、実施する必要がある。

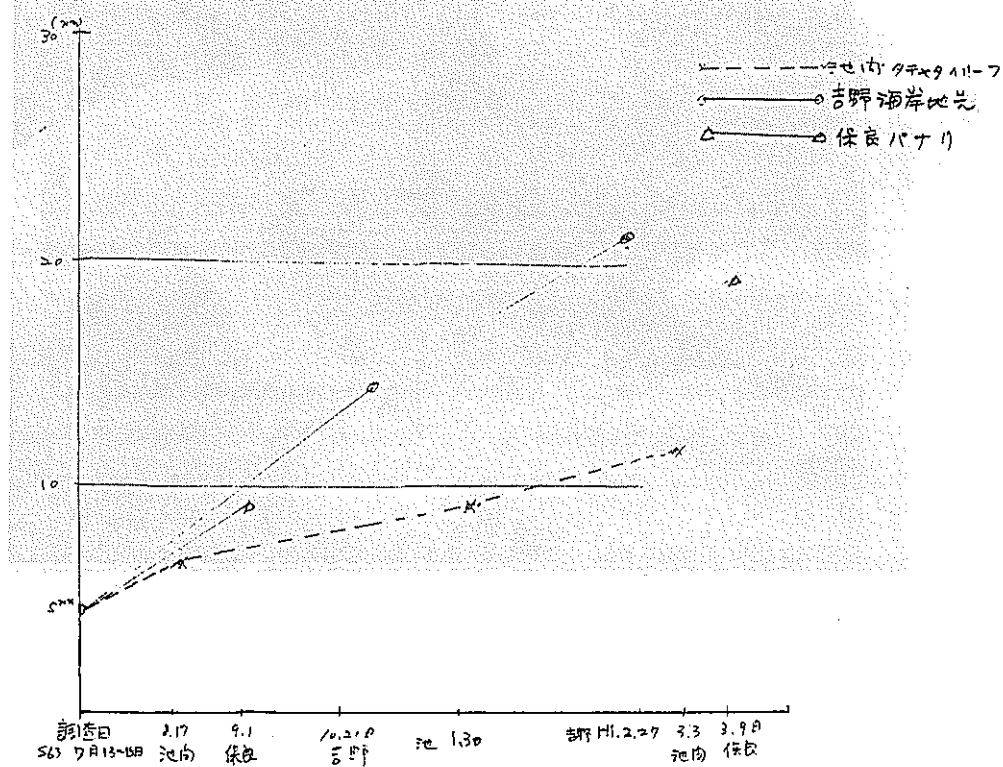
放流場所の選定については、水深が干潮時でも20cm以上あり、潮通しもよく、ハマサンゴの群生している場所がよいと考える。さらに、漁場管理の面からも一ヶ所の放流場所を重点海域に選定し、放流技術の改良、管理方法の検討を推進する必要があると思う。

昭和 63 年度シャコガイ放流場所

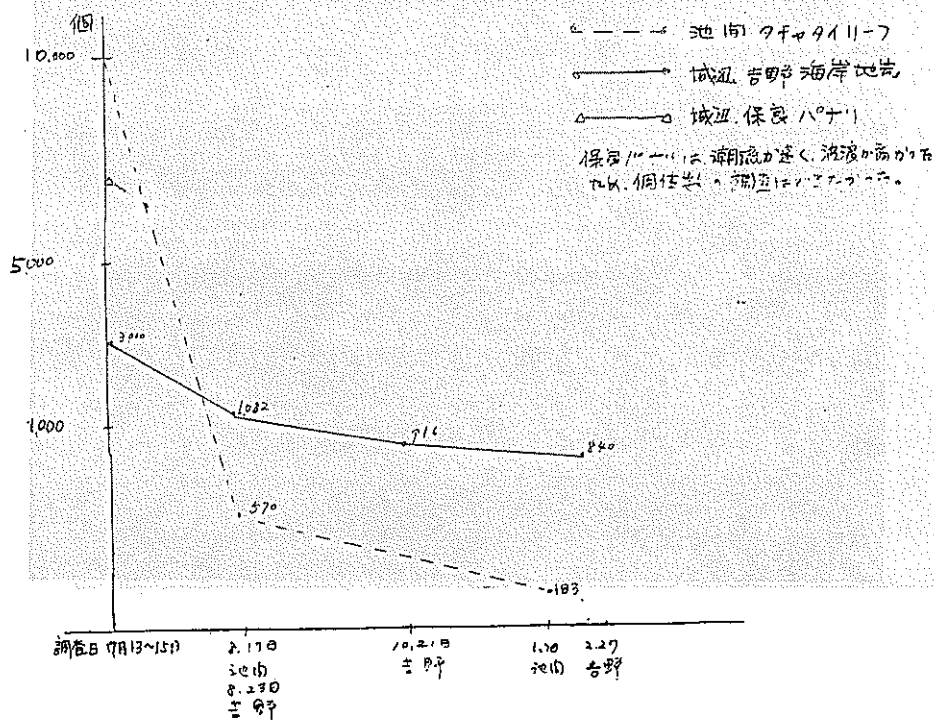
昭和五十年六月
池田県沿岸公入漁干漁

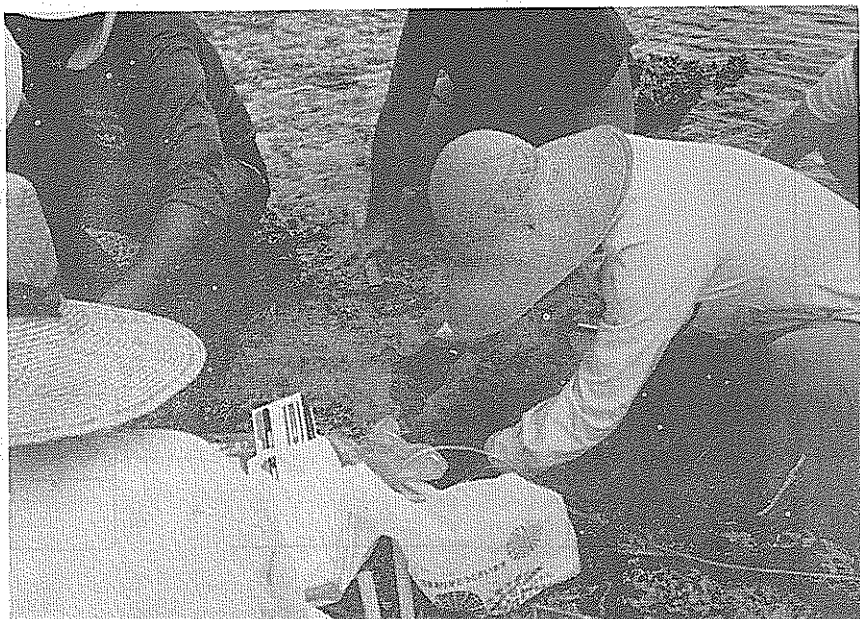


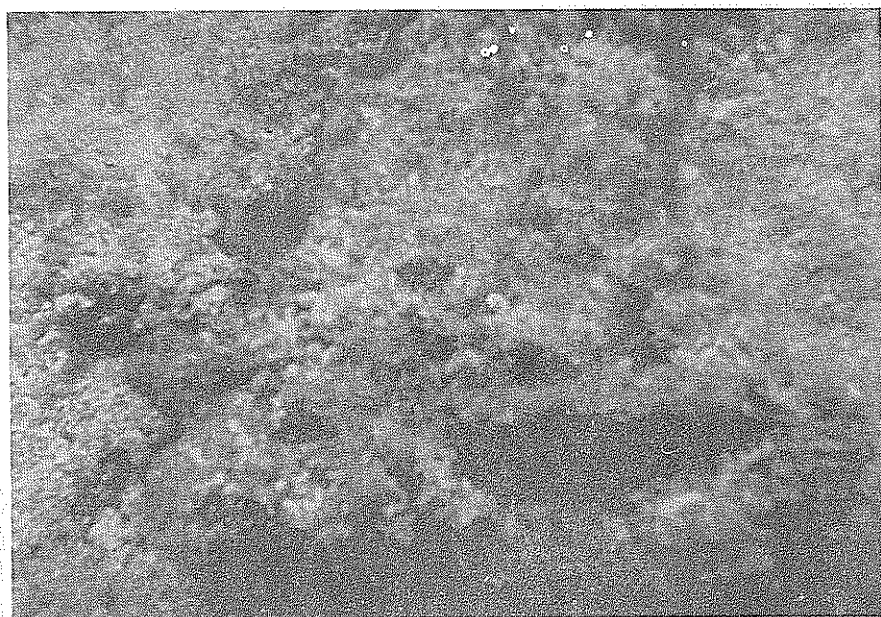
放流シャコガイの



放流後の追跡調査







吉野 シャコガイ放流、追跡調査

